



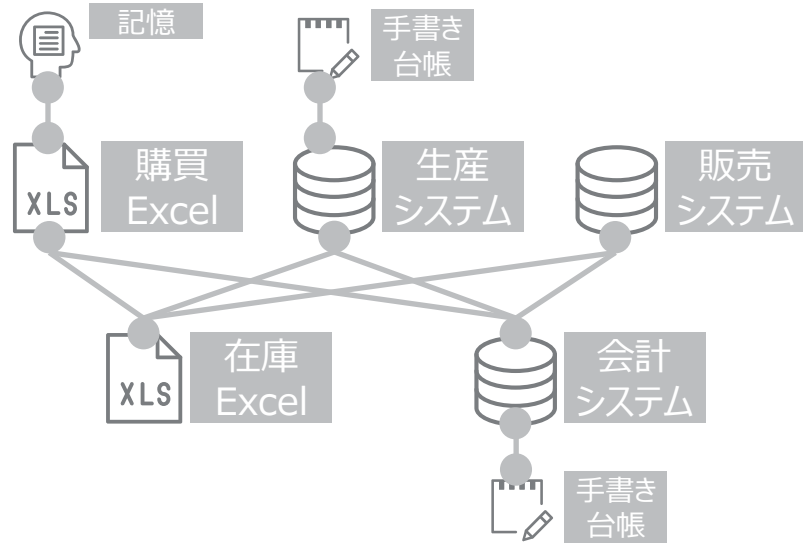
CMESアカデミア ガイダンス

簡易版



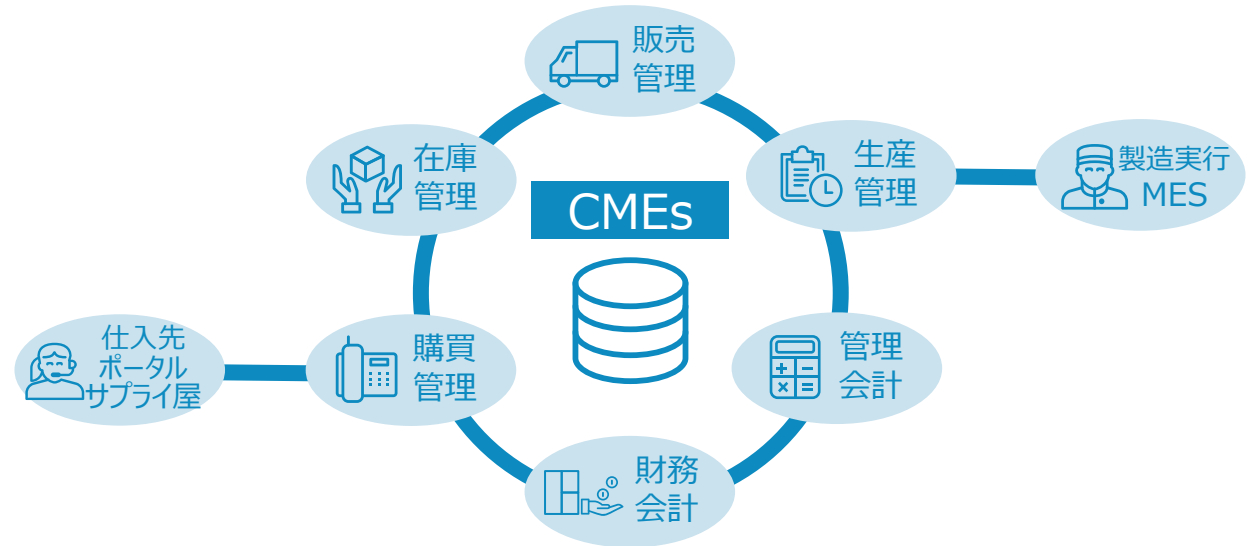
CMEsは、企業の基幹となる会計・販売等の業務を1パッケージで統合し、情報のリアルタイム把握を可能とします。加えて、製造に特化したMES・仕入先ポータル サプライ屋といったサブシステムにてデジタル化を更に加速させます。

導入前イメージ



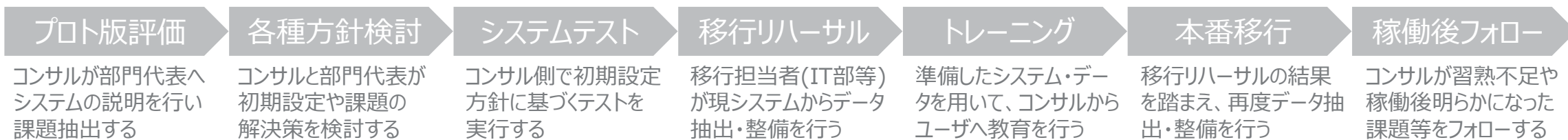
ツールと個別システムが混在
日本人の現場力でなんとか回している

CMEs導入後



1パッケージでリアルタイム情報把握、MESやサプライ屋によるデジタル化
多くの大企業・グローバル企業の現在地点

CMEsを始めとするパッケージシステムはメリットが大きい反面、導入の難易度が非常に高いという課題があります。経験豊富なコンサルタントが伴走し、ユーザの習熟不足をカバーする導入方法が一般的です。



導入企業コアメンバーのシステム習熟

システム全体像が不明瞭ながらも各種設計を行っている段階



移行リハーサルやトレーニングを通じ少し理解が深まってきた段階



実業務で一通り使ってみてようやく理解できた段階



コンサルの役割

- システムの基本機能を説明
- 諸設定や課題を解説し、意思決定支援



コンサルの役割

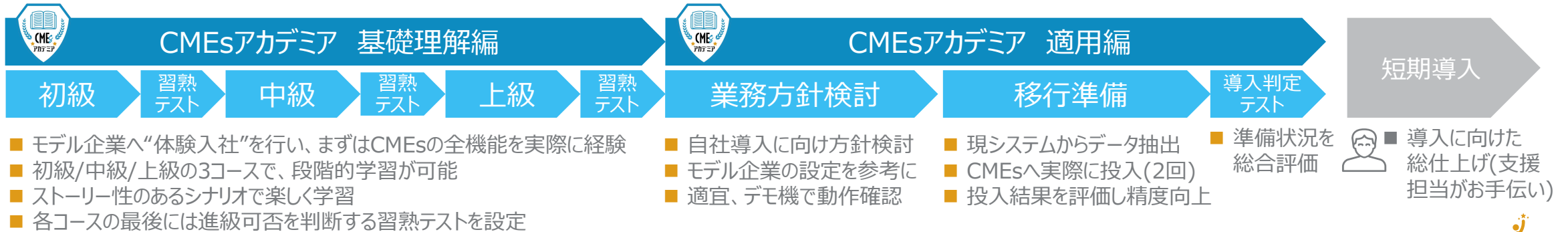
- システムの各機能を細かく説明
- 移行データ準備の説明とフィードバック
- 新たな課題があれば追加検討



コンサルの役割

- 稼働後の混乱を最小化すべくサポート
- 新たな課題があれば追加検討

はじめに導入企業コアメンバーの習熟をセルフスタディで高め、業務方針検討・移行準備までを自社内で推進します。導入判定テストにて総合評価し、導入準備が整っていると判断された場合に短期導入へ進みます。



導入企業コアメンバーのシステム習熟

セルフスタディで全機能を経験し
まずシステムの全体像を理解する

高いシステム理解のうえで
自社向けの設定検討・準備を進める



テキストブックを順に読み進める形で学習・導入準備を行います。適宜マスタガイドも参照し理解を深めます。

テキストブック



基礎理解編・初級コース

- CMEs基本機能を業務シナリオ別に学習
- 日次処理から月次決算までを一通り体験
- 慣れないCMEs画面操作や用語もここで習得



基礎理解編・中級コース

- 中小企業が直面しうる業務イベント (新工場設立、外注活用、品質トラブル、浸水被害等)を題材にCMEs応用機能を学習
- 一括処理やマスタ設定などの操作も習得



基礎理解編・上級コース

- 海外取引先との加工貿易を題材に、CMEsの輸出入処理・帳票出力機能を習得
- その他、試作品処理やCMEsの生産計画立案機能など、高度な内容を学習



適用編・業務方針検討

- CMEs導入に必要な業務方針を検討
- 会津精機の設定方針を参考に
- 適宜、デモ機で動作確認



適用編・データ移行準備

- 現行基幹システムから移行データを整備し、実際にCMEsデモ機へ投入・結果検証
- 移行トライアル・移行リハーサルの計2回の検証にて、データ精度を向上

マスタガイド



- CMEsの根幹を成す各種マスターの辞書
- テキストブックでの学習過程で、適時参照しマスタの意味を把握
- 移行担当者は、後半章も熟読しデータ項目レベルで理解必要



テスト



- 次の学習級を開始できる理解水準に到達していることを判定
- 用語や考え方の理解を確認する基本問題に加え、業務領域横断で、デモ機でのデータ処理を求める応用問題を用意
- 習熟度が合格ラインに到達していないと判定された場合、組織内で追加の学習を実施いただき、再試験が必要



- 業務方針検討内容・移行データ精度等を総合的にみて、後続の、短期導入へと進む準備が整っていることを判定
- いずれかの観点で、準備が整っていないと判定された場合、組織内で追加のアクション（移行データの再整備、課題潰しなど）を実施いただき、再判定が必要